

～目次～

1. T K K 活動
2. 関連団体の活動
3. 行政等の活動
4. T K K 役員より

【1】 T K K 活動

\*\*

●高次脳機能障害者のための「ボランティア(支援者)養成講座-2-」  
～脳と心のリハビリ～

10月5日(日) 於:東京都心身障害者福祉センター  
 予定以上の多数の方々にご参加いただきましたこと、改めて御礼申し上げます。  
 当日のアンケートの自由記入欄にお寄せ頂いたご意見・ご感想は次のURLのPDF  
 からご覧いただけます。  
[http://www.brain-tkk.com/index/show\\_information.php?boardAct=view&readNum=23](http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=23)

【2】 関連団体等の活動

\*\*

□[葛飾区の高次脳機能障害者ボランティア養成講座]

●10月4日(土)「高次脳機能障害者の心理」、講師:吹谷智佳子氏/對馬依子氏(臨床  
 心理士) === 参加人数は48人でした。若い女性の心理士さん二人の堂々と  
 した発表でした。印象に残っているのは、「高次脳機能障害者のリハビリは、当事  
 者のプライドを傷つけない事」、これにつきました。 === 山寄(記)

●11月1日(土) 高次脳機能障害者の安全な介助の方法

○[ウェルピア祭り] 12月7日12時30分～14時30分 ウェルピア葛飾

講師:中島恵子先生 高次脳機能障害者を理解するために-脳のリハビリとは-

○1月10日(土)13時30分～「高次脳機能障害者が地域で生活するために必要な事」

●サークルエコー10周年「みんなで大いに語ろう会」

10月18日(土)午後、富士高原ファミリーロッジ

講座:「脳と心」渡邊修先生、語ろう会:コーディネーター 赤塚光子先生

=== 参加者は、サークルエコー会員の他、T K K 役員・ご家族、山梨「甲斐路  
 の会」会員、健康科学大学や首都大学東京の先生・学生、地元の福祉関係の方など  
 でした。「語ろう会」は「住まい」をテーマに会員の発表、グループでのディスカッション  
 とリーダー発表という内容でしたが、だれしもが考えていかねばならない問題であり、  
 当事者でない学生さん方からも勉強になった、これからも関心を寄せていきたい等の感  
 想を載せています。また、第2会場でのサポーター企画による当事者活動は高い評価を  
 受けました。記念行事後の夕食会、懇親会、合宿には、ゲストの方々のご参加もあり、  
 意義深い合宿となりました。 === 田辺・高橋(記)

□

●調布ドリーム「ドリームサロン」

～高次脳機能障害を、知ろう、語ろう、もっと身近に～

11月9日(日)午後、調布市総合福祉センター

講演:「脳機能画像から見る高次脳機能障害の対応」

慈恵医大第3病院 リハビリテーション科医師 榎間剛先生  
=== 東京西部はもとより埼玉、神奈川から、また当事者・家族に加え医療・福祉関係者、議員、学生他、様々な立場の方々、80名以上が参加されました。

榎間先生はアニメーションを駆使したビジュアルなパワーポイントを基に、脳の機能、画像診断の基礎を分かりやすくご説明され、講演は好評を博しました。

第2部「当事者発表～ドリームメンバーが語る高次脳機能障害」はトレーニーが主役となり、また来場の皆様にもご発言いただき、ドリームらしいアットホームなサロンとなりました。 ===== 矢野 (記)

□

#### ○日本脳外傷友の会 主催 「後天性脳損傷の子どもを支援するシンポジウム」

11月24日(月)13:00～、はまぎんホール ヴィマール(横浜市西区みなとみらい3-1-1)  
議題：小児高次脳機能障害の社会環境を考える

#### ○高次脳機能障害者と家族の会 10周年記念講演

11月30日(日)13:30～、中野サンプラザ8階研修室

講師：和田 敏子氏(ケアセンターふらっとセンター長)

「コミュニティにおける高次脳機能障害者の主体と適切なプログラム」

<申し込み先> FAX:03-3200-8970(太田)

□ === 10周年を迎え、これからのテーマである「地域での回復と支援」についてお話をしていただき、懇親会(17:30～)では私たちのこれからについて大いにお話したいと考えています。ご参加お待ちいたしております。 ===== 太田 (記)

□

☆ 大田区に高次脳機能障害の障害者団体、「フォーラム 大田高次脳」10月に誕生。

---

### 【3】 行政等の活動

\*\*

---

#### ●東京都「高次脳機能障害者相談支援研修会」

— 行動と感情の障害がある方への理解と対応 —

10月30日(木)、都社会福祉保健医療研修センター 講堂

参加者：東京都に於ける相談支援従事者(300人超)

・「高次脳機能障害者の支援・援助における精神科との連携について」

講師：佐藤 真由美 先生(国立精神神経センター病院精神科)

・「当事者・家族の思い」・・・TKK関係者3名が講演しました

・「地域における支援の取り組み」～支援者の立場から～

講師：繁野玖美氏(作業療法士)(世田谷区立総合福祉センター成人係)

講師：宮尻京子氏(看護師)・斉藤秀代氏(福祉、足立区障害者福祉センターあしすと)

講師：安宅雪子氏(作業療法士)(杉並区□地域生活支援係「オブリガード」)

□ 「当事者・家族の心理とケアのポイント」～心理専門職の立場から～

□講師：藤本 豊氏(心理技術)(東京都中部総合精神保健福祉センター宿泊訓練係長)

□ === 朝の10時から夕方5時ごろまで、ビッシリ詰まった、さすが内容の濃～い講義・講演でした。 □□□□□□□□□□ □□===== 細見(み)記

□

#### ●第4回「発達障害児(者)および高次脳機能障害児(者)の家族を対象としたコールセンター設立に関する調査研究」検討委員会

日時：10月31日(金)18:00～20:00

場所：早稲田大学内、(財)パブリックヘルスリサーチセンター会議室

議事内容：アンケート調査方法、相談員の調査内容、その他について

□

#### ○「第4回多摩高次脳機能障害研究会講演会」

11月12日(水)18:30～21:00、国分寺いずみホール

・『地域で支える。杉並の取り組み』杉並区地域生活支援センター  
「オブリガード」 作業療法士 安宅 雪子氏

・『生活を支える高次脳機能リハビリテーション』  
東京慈恵会医科大学 講師 橋本 圭司氏

□

○世田谷区「高次脳機能障害の人の相談会」

11月21日（金）午後、世田谷区立総合福祉センター3階  
東京慈恵会医科大学 講師 橋本 圭司氏□

□

○「第2回北多摩北部高次脳機能障害者支援地域ネットワーク連絡会」

11月21日（金）16：00～20：00 東久留米成美教育文化会館 大研修室  
議題：高次脳機能障害者が利用する日中活動の充実について

□

○「第1回南多摩高次脳機能障害者支援地域ネットワーク連絡会」

11月25日（火）16：30～20：30、八王子市学園都市センター ギャラリーホール  
議題：高次脳機能障害者支援普及事業、永生病院に於ける取り組み他

□

○世田谷ボランティア協会主催 「ヘルパー2級講座」 11月28日より開講

夜と休日を利用し、働いている人が受けやすいような時間帯、講師に橋本Dr、  
野々垣すてっぷなな施設長、川辺仲町台アシスト施設長、和田ふらっと施設長、  
今井ヘルパーステーション連管理者など多彩な講師陣、理解者や介護パ  
ートナーを目指す方に最適の講座です。

内容、スケジュール等の詳細は、次のURLのPDFを参照下さい。

[http://www.brain-tkk.com/index/show\\_board.php?boardAct=view&readNum=121](http://www.brain-tkk.com/index/show_board.php?boardAct=view&readNum=121)

問い合わせ先：03-5829-8743 ケアセンターwith (植田)

---

#### 【4】TKK役員より

\*\*\*

#### 活動の周辺で感じること

■■■■

理事■■池田 敦子

□

あるご家族から、A市とB市どちらがサービスは充実しているの？と聞かれました。これを機に、自治体によってどのくらいサービスが違うものか知りたいと思い、A、Bの市の障害者サービス一覧の資料を窓口でもらい、東京都が発行している「社会福祉の手引き」を見ながら自治体のサービスと比べてみました。

ところが、「…手引き」は、根拠法や関係機関の掲載ページ案内などを末尾に示しており、調べやすい工夫を感じますが、都と市、市と市など3つの資料の作り方がばらばらなので、このサービスは市の資料のどこにあるの？と探しにくく、総じて市の資料は分かりにくいものでした。障害者自立支援法が導入された現在、旧サービスから新サービスに変わる移行期間にあり、サービスの名称からその内容をすぐ理解するのも難しく、さらに分かりにくさを増幅しています。めげずによく見ると、市は予算規模が小さいためか、独自予算をつぎ込んで提供するサービスはほとんどなく（まったくないかも知れない）、国の制度によるサービスを都と市の予算を合わせて提供しているので、どちらの市も基本的には同じサービスになっています。

多くは市が1/3程度を負担するルールなので、それをせずに取り組んでいないサービスも、場合によってはありそうです。A市は、支援費制度時代のホームヘルプサービスを、市の予算で継続して提供していましたが、来年は出来ないと家族に説明したそうです。これも移行経過措置のようです。

せめて、自治体間の比較が簡単に出来るような共通した資料を作ってほしいと思いましたし、少なくとも、窓口の人が親切に分かりやすく説明してくれるということが、どこに住んでいても変わらない行政サービスの基本中の基本ではないかと、つくづく思いました。

===== 2008.11.11 以上